２０２３年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

１　活動概要

活動団体名	主 ： 横田雅弘ゼミナール(4 年) 副 ： 岸磨貴子ゼミナール(大学院・4 年)・山脇啓造ゼミナール(4 年)
活動テーマ	誰もがありのままに暮らせる中野区のまちづくり～ダイバーシティを受け入れるまちの推進組織とシステムを創る～
活動期間	2023 年　4 月　1 日　～　2024 年　2 月　29 日
主な活動場所	中野区、明治大学中野キャンパス
連携地域 連携団体等	中野ダイバーシティ・ウォッチャーズ、中野区役所、中野区のマイノリティ当事者・支援者団体、関心を寄せる中野に拠点のある企業
活動者数	教員 3 名、学生約 50 名(横田ゼミ・岸ゼミ・山脇ゼミ) ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2　活動内容　※活動内容や活動成果は地域連携センターHP 等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながることが分かるように記入してください。）

中野区はオタク文化のまちとして、また性的マイノリティが多数居住するまちとして知られており、2023 年 4 月 1 日には「中野区人権および多様性を尊重するまちづくり条例」を制定した。しかし、これまで性的マイノリティ、視覚障害者、車椅子ユーザー、外国人、高齢者、経済的に恵まれない子どもの支援者などが、それぞれ別々にしか活動してこなかった（図 1）。本活動は、これらの人々が互いに関心を持ってつながり、さらにダイバーシティに関心のある企業や学校、中野区の行政なども巻き込んで、誰もが自分のマイノリティ性を隠すことなく、ありのままに生きることのできるまちを創ることを目的としている。その目的達成のために、3 つの柱を設定した（図 2）。今回助成をいただいた活動は、第 2 回中野ダイバーシティフェスタを中心とした諸活動である。

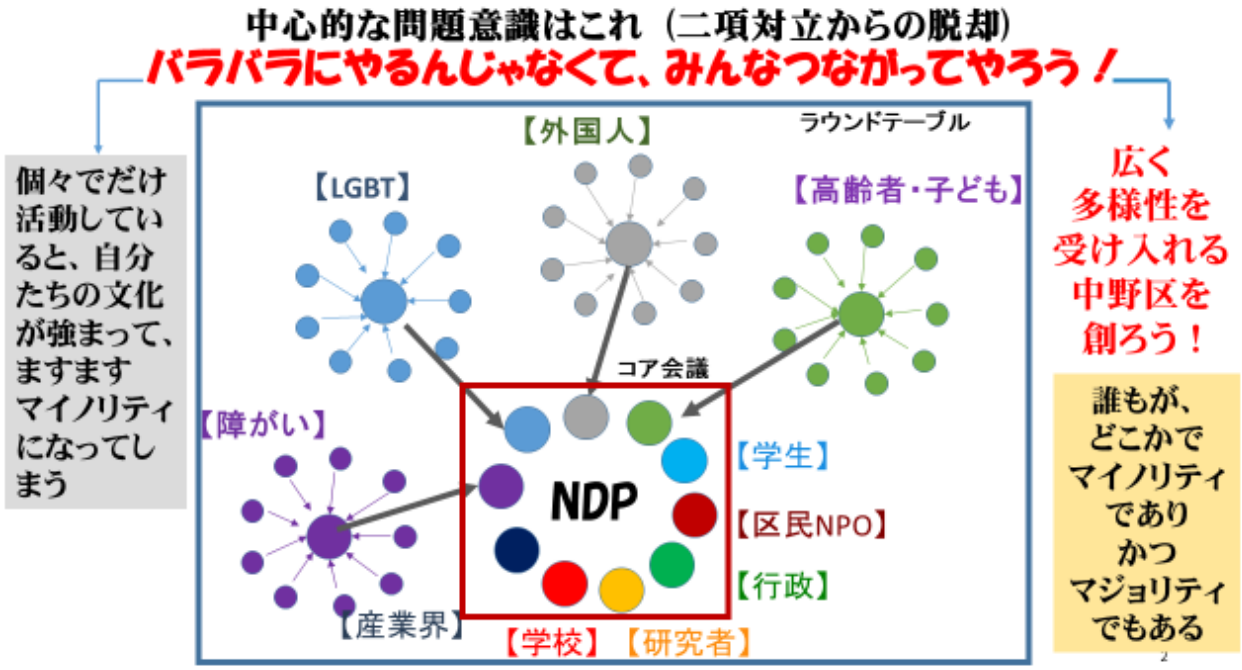

図 1　バラバラにやるんじゃなくて、みんなつながってやろう

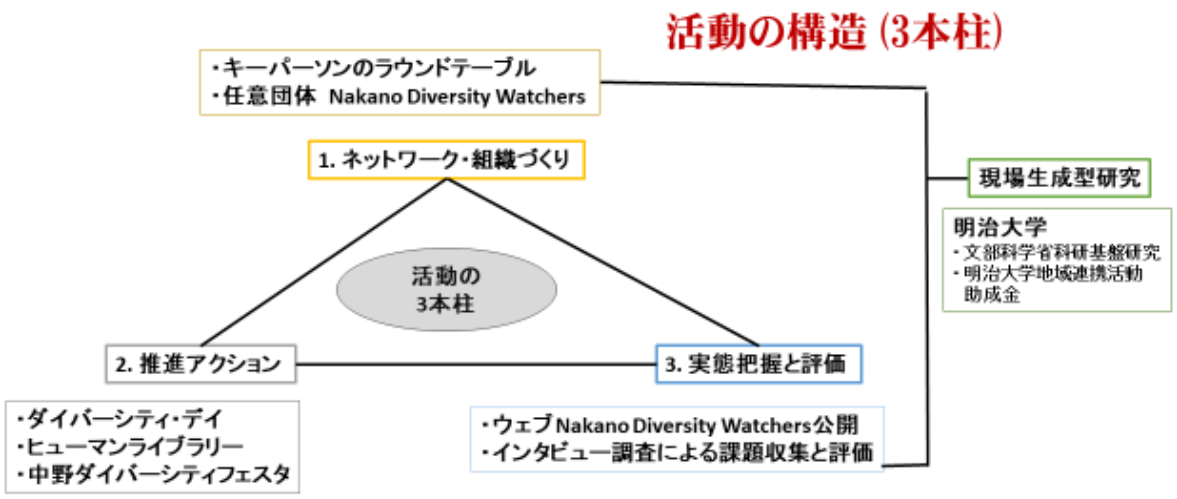

図2 活動の3本柱

1

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

1. 活動の起点 ： この活動の起点となったのは、2019 年に国際日本学部の 4 人の教員が獲得した「地域のダイバーシティ推進に関する現場生成型研究」（科研基盤 C、代表者：横田、コロナでの延長を含め、2023 年度で終了）である。中野区はオタク文化や性的マイノリティの多く住むまちとして多様性を受け入れる「地域遺伝子」のようなものを持っていることから、2020 年には、研究のスタートとして、その「地域遺伝子」を発掘し、そこで活動する多様なキーパーソンを探し出して中野キャンパスに招き、50 人ほどの参加者で第 1 回のラウンドテーブルを開催した。その後も 2022 年度までに 3 回のラウンドテーブルを開催して以下のフェスタを準備した。

2. 第 1 回中野ダイバーシティフェスタの開催

コロナ禍においても国際日本学部の山脇・岸・横田・佐藤（郡衛）によるオンライン公開セミナー「中野ダイバーシティ・デイ」を 2 回開催した。その後、横田ゼミの学生がプロデュースし、クラウドファンディングを行って資金を調達して、2022 年 11 月 13 日（日）に中野ダイバーシティフェスタ 2022 を中野キャンパスのほぼ全ての施設を会場とする大規模イベントとして開催した。ここには、岸ゼミ、山脇ゼミ、横田ゼミの独自企画の他、計 37 の団体（スタッフ 200 人）が参加し、500 人を超える一般来場者を集めた。2022 年 4 月 1 日に中野区が発効した条例「中野区人権と多様性を尊重するまちづくり条例」の発効記念シンポジウムも 5 階ホールで開催している。その模様は明治大学 HP、中野区 HP、朝日新聞等に掲載された。

3. 「中野区人権と多様性を尊重するまちづくり条例」の発効

これらの活動は、酒井区長が推進する「中野区人権と多様性を尊重するまちづくり条例」の発効を

背景とするものである。横田はこの条例制定にあたった審議会の副議長として参加し、条例の実質化を強くもとめてきた。

4.　中野区のダイバーシティ推進を継続的にウォッチする仕組みの提案

イベントの開催でアピールすることも重要であるが、単発的なもので終わってしまえば自己満足でしかない。条例の実質化も合わせて、継続的に中野区のダイバーシティ推進を見届け、必要に応じて提言していく組織とその仕組みが必要である。このため、電通ダイバーシティ・ラボのアドバイスを受けて、2022 年度までに、図 3 のようなダイバーシティ時間曼荼羅を構想した。これは、双方向のメディアとして、中野区の課題をウェブにあげ、それが解決していくのかどうかを継続的にウォッチしていく仕組みである。

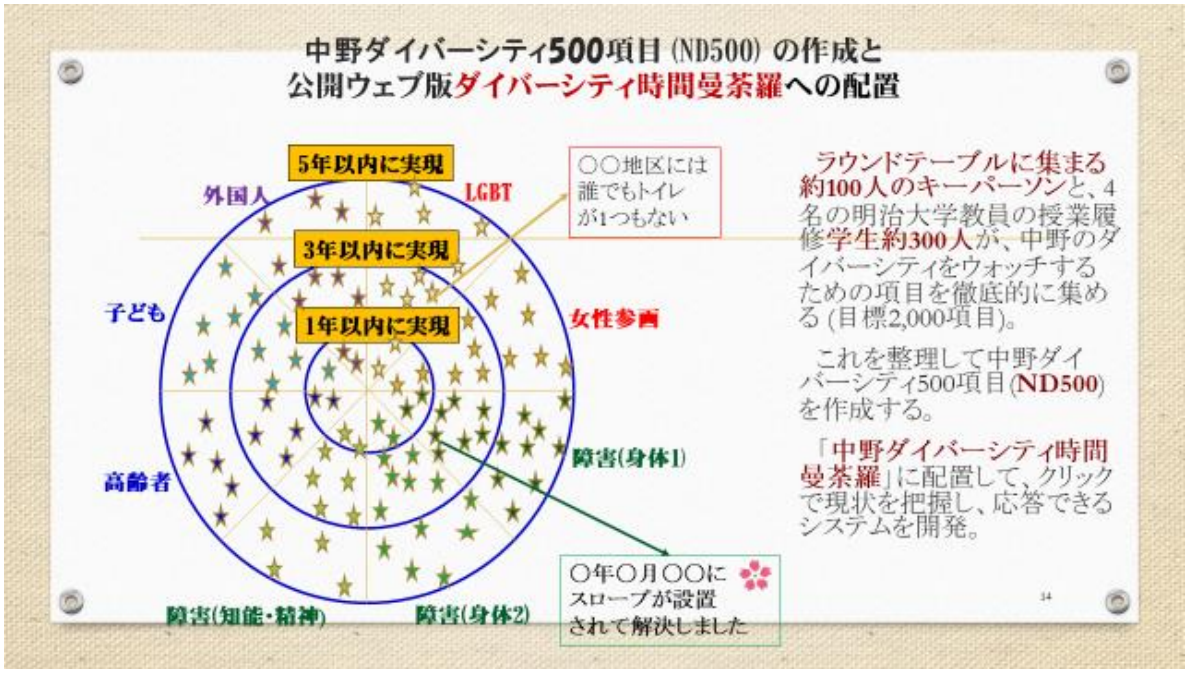

図 3 ： 中野ダイバーシティ時間曼荼羅

明治大学の地域連携活動助成金を受ける前までの活動経過は上記の通りである。助成を受けた 2023 年度の活動は「活動成果」の項にて述べる。

活動スケジュール

2023 年 5 月 ： 横田ゼミと中野区視覚障碍者協会高橋会長、認知症サポーターの会伊藤代表、ゲイを公表している中野区の石坂区議、アールブリュット（障害者も多数参加する生の芸術活動）を推進する愛成会のアートディレクター小林氏ならびに中野区役所とフェスタ打ち合わせ。

6 月～10 月 ： 横田ゼミによる 3 回のオンライン説明会開催。

7 月～8 月 ： 横田ゼミが各団体をまわり、インタビュー形式で中野区の課題を収集。

7 月～10 月 ： 2 回のラウンドテーブル開催。

7 月～10 月 ： 横田ゼミが「ブックオブりーふぐりーん」と共催でフェスタ当日に実施するヒューマンライブラリーの準備（横田ゼミは 12 年間の開催実績あり）。

9 月～10 月 ： 横田ゼミが 20 にまとめた中野区の課題を表現するポスターを制作。

10 月 29 日(日) ： 中野ダイバーシティフェスタ 2023 開催。

11 月～12 月 ： フェスタ報告書の作成と、今後このイベントをウォッチャーズ主催とするための引継ぎ。中野区のダイバーシティ推進をウォッチするウェブの制作。

12 月 12 日(火) ： 今後の中野区のダイバーシティ推進(ダイバーシティフェスタ開催等)のためのキーパーソン 9 名の会議(Nakano Diversity Watchers 会議 ： NDW 会議)開催。

2024 年 3 月 2 日(土) ： 第 2 回 NDW 会議開催予定。

活動成果

1.　第 2 回中野ダイバーシティフェスタ 2023 ： コロナ禍の収束に伴い、2023 年度には横田ゼミの学生が中野区のマイノリティの当事者・支援者団体、中野区役所、関心を寄せる企業などをまわり、マイノリティの当事者団体の代表者の他、電通ダイバーシティ・ラボや酒井中野区長も参加するラウンドテーブルを 3 回開催し、第 2 回の開催準備を進めた。明治大学の地域連携活動助成金を受けた第 2 回ダイバーシティフェスタ 2023 は、参加団体を中野区を拠点として活動する団体ならびに明治大学と関係のある団体に絞った。これは、今後の継続を考えて、主催者をこれまでのように国際日本学部のゼミから独立させ、中野区民の団体が自主的に実行委員会形式で開催できる形を模索するためである。

成果として、国際日本学部横田ゼミナールが全体をプロデュースし、岸磨貴子ゼミ(①エジプトをフォトボイス「私たちの目を通して見えたエジプト」の展示、②日常にある「マジョリティの特権」を探してみよう（ワークショップ)、③児童生徒の多様な振り返りを支援するアートベース・リフレクションの展示)、山脇啓造ゼミ(やさしい日本語)、横田雅弘ゼミ(ヒューマンライブラリー)を合わせて計 20 団体（写真 1)が参加し、第 1 回を超える 800 人の参加者を記録した。今回、中野区に焦点を当てるために、横田ゼミの学生が今回の参加団体を中心にインタビューを行い、中野区の課題と考えていることを 20 枚のパネル作品に仕上げてフェスタ当日エントランスホールに展示した(写真 2)。また、今回も中野区主催で「中野区人権と多様性を尊重するまちづくり条例」の記念シンポジウムを 5 階ホールで開催した。

写真１： フェスタ終了後の集合写真

写真２： 課題ポスターの展示

2.　継続させるための組織「中野ダイバーシティ・ウォッチャーズ」の結成

ダイバーシティを一つのブランドにしていく中野のまちづくりには、単発のイベントだけでは不十分である。継続的に中野区民(当事者や支援者等)が参加していく中核組織とシステムを構築する必要がある。このために大学の教員や学生が果たすことのできる役割は、自立的に中野区のまちづくりを継続していく組織の立ち上げと運営を支援することである。組織としては、中野キャンパスでこれまで開催されたラウンドテーブルにおいて、任意団体「中野ダイバーシティ・ウォッチャーズ」結成の

ための基本方針が決まっていたが、今期の目標は、第 2 回フェスタを成功させることを一つの具体的な目標に据えながら、今後継続的に中野区のダイバーシティ推進を担う「中野ダイバーシティ・ウォッチャーズ」を正式に発足させ、第 3 回以降のダイバーシティフェスタ主催者として自立していけるように育てていくことである。このため、12 月 12 日(火)には酒井中野区長を含む多様な領域のキーパーソンの会議(Nakano Diversity Watchers ： NDW 会議)を中野キャンパスで開催し、現在団体の規約案が審議されており、中核となる役員を決める段階に入っている。第 2 回の NDW 会議は 3 月 2 日に予定されている。

3.　ダイバーシティ推進のためのウェブ Nakano Diversity Watchers の開発

先に活動計画の項で示した中野ダイバーシティ時間曼荼羅の第一歩として、中野区のダイバーシティの展開を推進するツールとして開発したのがウェブ Nakano Diversity Watchers である。これによってウォッチャーズのメンバーを増やし、つながりを拡大させ、中野区のさまざまな課題をそのメンバーがウェブにアップして、その解決に向けたウォッチをしていくのである。

すでにウェブ制作は終了し、フェスタで展示された課題作品を盛り込んだコンテンツが公開されている。これらの課題収集や発信は、今後もウォッチャーズが中心となって継続的に進められる。

https://diversity-watchers.net/

4.　この一連の活動は、「『人をつなぐ』ダイバーシティのまちづくり～中野ダイバーシティ・プラットフォームの実践から～」(横田雅弘、明治大学人文科学研究所紀要、2023)にまとめられ、2023 年 6 月 11 日(日)に東京都立大学で開催された第 44 回異文化間教育学会大会で横田が発表している。